

## 令和２年度 事業報告書

### 事業の状況

令和２年２月に国内で初めて確認された新型コロナウイルスは、瞬く間に全国に広がり、未だ収束の目途がたっていない状況である。

弘前大学医学部附属病院においては、令和２年２月２８日から、新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止対策として、入院患者への面会禁止、同年５月１１日から正面玄関の開放時間の変更が実施されている。また、医学部学生の院内への立入りを一部制限している他、関係業者等の院内への立入りも原則禁止としている。これらの影響により、全ての部署において利用者数が大きく減少したため、令和２年４月１２日から、食堂では、日曜日を休業とし、同年５月１８日から、食堂、ドトールコーヒーショップで、時短営業を実施している。なお、ローソンは通常どおりの営業としている。

このような厳しい経営環境の中、本年度の決算については、経常収益では、ローソン、ドトールコーヒーショップ、食堂においては、新型コロナウイルス感染症感染拡大対策の事業別のガイドラインに基づき感染予防に努め、国等が行うキャンペーン等に参加し、お客様の購買意欲を高めるよう努めたものの利用者数が、ローソンでは約２３％、ドトールコーヒーショップ約３８％、食堂では約４０％減少し、売上も大きく減少した。薬局については、新型コロナウイルス感染症感染拡大防止の対応として長期投与の処方が増えたこと等で処方箋枚数は減ったが、薬剤料は増えた。また、特定の病気に処方されている薬が変更となったこと等で特に金額の高い処方が増え増収となった。その結果、経常収益合計では昨年度に比べ約２．８％、約３，５１３万円減の約１億２，６１１万円となった。

経常費用では、仕入費については、売上に連動して、ローソン、ドトールコーヒーショップ、食堂及び外商は減少し、薬局が増加した。人件費については、６月期及び１２月期賞与の減額（９０％支給）を実施したこと、食堂では日曜休業により職員及びパートタイム職員の勤務が減り、また、土曜日のパートタイム職員の勤務が減ったこと、ローソン、ドトールコーヒーショップでは大学生の勤務が減ったこと、同一労働同一賃金に伴う給与規程の改定により家族手当等を減額（将来的には廃止）したこと等で定期昇給等による増の要因はあるものの合計では減少した。助成関係については、学術集会の開催中止等により研究奨励助成費が約６５万円の減、入院患者のための公演会の開催中止等により患者支援費が約１００万円の減、一般助成費が弘前大学学祭の

中止等で約52万円の減となった。その結果、経常費用合計では昨年度に比べ約1.0%、約1,275万円減の約12億4,779万円となり、当期経常増減額は約3,518万円の費用超過となった。なお、経常外費用として、令和2年4月の診療報酬改定により薬価が引下げられたことに伴う棚卸資産評価損等の計上並びに法人税、住民税及び事業税の合計で約135万円となり、最終的には当期一般正味財産増減額は約3,653万円の減少となった。

以上のように、本会の運営は非常に厳しい状況となったが、本年度もこれまでと同様に公益目的の支出計画の達成のため、実施事業である「医学に関する研究の奨励及び助成事業」、「患者支援事業」及び「患者等のための食堂事業」を行った。本年度の主な事業内容は、次のとおりである。なお、「学生に対する福利厚生事業」については、助成の対象となる事業が全て開催中止となった。

#### 【実施事業】

- |                           |              |
|---------------------------|--------------|
| 1. 医学に関する研究の奨励及び助成事業      | 9,316,250円   |
| ① 弘前大学における医学に関する研究助成      | (2,950,000円) |
| 医学研究科臨床中央研究室への研究助成        |              |
| 医学研究科附属動物実験施設への研究助成       |              |
| 附属病院の診療技術向上に対する助成         |              |
| 附属病院検査部に対する研究助成           |              |
| ② 医学研究科各講座学術集会の主催に対する助成   | (0円)         |
| ③ その他、医学振興・医療技術の向上へ寄与する助成 | (6,366,250円) |
| 附属病院の管理運営に対する助成           |              |
| 附属病院看護部に対する研究助成           |              |
| 学生用図書購入に対する助成             |              |
| 2. 患者支援事業                 | 107,360円     |
| 附属病院内に観葉植物を配置             |              |
| 3. 学生に対する福利厚生事業           | 0円           |
| 4. 患者等のための食堂事業            |              |

食堂においては、コロナ禍の中、弘前大学が行った学生を支援する事業「医学部医学科学生限定の100円弁当」の提供に参加し、学生に昼食、夕食弁当の販売を行い、好評であった。

また、客席を減らし、アクリル板を設置するなどして感染対策に努め、「コロナに負けるな弘前大学プレミアムお食事券」や「Go To Eat キャンペーンあおもり食事券」が使える店舗として登録を行い利用者の便宜に応えた。

#### 【病院内及び周辺における患者等に対する小売・サービス業】

- イ) ローソンにおいては、令和2年4月、5月、6月にローソン本部がホスピタルローソン店を対象として、新型コロナウイルス感染症感染防止対策等で緊迫状態にある医療スタッフに対し企画した各月1日限定のスイーツ半額セールを行い、通常1日の販売数が約120個のところ、3日間の販売数は約8,200個となり、好評を得た。また、コロナ禍の中、ローソン本部ではマスク、消毒液、使い捨て手袋等の品薄状態が続き、この状態を回避するため、ローソンの基準を満たした当店独自の業者に優先的に納入してもらい、お客様の要望に応えた。
- ロ) 薬局においては、前述のとおり、特に金額の高い薬の処方が増えたことで増収となった。さらに、医療安全セミナーを薬局内で開催し、新型コロナウイルス感染症について知識を深め、オンラインセミナー等にも積極的に参加し、スキルアップに努め、「在宅患者訪問薬剤管理指導料」及び「かかりつけ薬剤師指導料」の算定に結びつけている。また、在宅患者薬剤管理の実績を有していること及びかかりつけ薬剤師指導料等に係る届出を行っていること等も算定の項目となっている「地域支援体制加算」については、令和2年4月から算定要件が改定され厳しくなったが、算定要件を満たし、加算できる体制作りを努めた。
- 令和3年1月から、クレジット決済に加え、電子マネーの利用が可能となり、お客様の支払の利便性を高めた。
- ハ) ドトールコーヒーショップにおいては、令和3年3月から、クレジット決済及び電子マネーの利用に加えコード決済を開始し、お客様の支払の利便性を高めた。また、客席を減らすなどして感染対策に努め、「Go To Eat キャンペーンあおもり食事券」が使える店舗として登録を行い利用者の便宜に応えた。
- ニ) 外商においては、病院からの要望に応え、外来診療棟4階に飲料自動販売機を増設した。